

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年7月28日～8月3日)

2020年8月4日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ7月1日時点の対外債務、年始対比9億ドル(5.3%)増加の180億ドル(7/31)
- チハノフスカヤ候補、ミンスクで選挙集会を実施し、6万3千人が参加(7/30)
- ベラルーシ治安部隊、露民間軍事会社「ワグネル」社のロシア人戦闘員33名を拘束(7/29)

【ルカシェンコ大統領動静】

- ヴァクリチク国家保安委員会委員長、ノスケヴィチ捜査委員会委員長と会談。(8/1)

・露「ワグネル」社のロシア人戦闘員拘束事案につき、多くの事実が興味深いものである。私は、我々の兄達が黙っているのを見ている。既に、彼らはもはや、この傭兵達をイスタンブールに派遣したと叫んでいない。イスタンブール(への派遣)など最初からなかったのである。この集団には、別の目的があった。捜査の課題は、これらの目的を明らかにすることである。

・彼らには罪があるが、厳格な措置を取るほどではない。彼らは兵士であり、命令されたから来たのである。誰が命令したのかを解明する必要がある。

・第一グループであると解明したことは素晴らしい。私は、彼らが、180名～200名のうちの最初のグループであると理解している。ロシアで尻尾を隠し、「ちょうどそのグループの到着について調整するところであった」ということになってしまう試みは、ばかげたことである。

・ロシア軍が参加する、ベラルーシにおける行事においては、必ず両国のしかるべき省庁が相互に機能している。軍人の入国許可を出来るのは、大統領だけである。誰も、許可を与えていない。

・ベラルーシは今回発生した事件のための相互協力にオープンである。我々は、嘘で政治を組み立てることはない。マスコミで相互に声を上げていても、問題は解決しない。そのため、ロシア側の誰かが追加情報を欲しいのであれば、我々は常にオープンである。我々は何も隠すことはない。我々は、事実を必要としている。

・捜査は、捜査委員会が行い、国家保安委員会や警

察が実務上の手助けをする。事実は社会に提示されるべきである。

(8/1 大統領公式ホームページ)

- イェルマルコヴァ・ベルガスプロム銀行臨時頭取と会談(8/1)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・このような大変な時期に(銀行頭取としての座に)応じて頂き、また実質的に銀行と従業員を救って頂き、感謝している。銀行に秩序があることを願っている。従業員がおり、知見があり、チャンスは出てくるだろう。

我々は国立銀行とともに支援を行う。収賄事件の露見により、非常に大変な状況になったが、我々には、銀行が通常通りの機能を維持するための知見がある。

・貴頭取と、レディニツカヤ・ベラルーシ国立銀行副総裁は、状況を安定化させることに成功した。彼女にも感謝の念を伝えて欲しい。私は、ベルガスプロム銀行に投資をした人々や企業が何も失うことがないように全て実行する。

・ガスプロムバンクから特段の関心はないようである。露大統領と話した際、彼は私に「銀行は機能するであろう。所有者は貧しくない。それゆえ、もしその銀行が必要なのであれば、その銀行が機能するように努力して欲しい。」と推奨した。そして私は「賛成しかない。我々は反対しない。しかし銀行は我々の法律に従い機能する必要がある。」と返答した。それゆえ、この期間に実行されたことに対し、感謝している。

(8/3 大統領公式ホームページ)

- コチャノヴァ上院議長とシェイマン大統領官房長と会談(8/1)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・コチャノヴァ上院議長には、選挙運動本部長として、各州知事と交渉し、物資以外にどんな支援が必要か確認してほしい。

・シェイマン官房長には、投票所におけるセキュリティなどの支援に注意を向けていただきたい。

・なぜならば、国内全ての場所で大統領選挙を平和に行おうとしているわけではないという情報が頻繁に入ってくるためである。各投票所における安全の確保は、我々の神聖なる義務である。好きに叫ばせておけば良いが、必要以上であるべきではない。我々がどこかで誰かを制限することを批判するようになってはならない。法律がある。法律に従って、選挙活動が進むべきである。

・選挙管理委員会に対し、全ての支援を行う必要がある。私は、選挙活動初期の段階で伝えていた。中央選挙管理委員会だけでなく、地方においても、何らかの支援を必要としているかもしれない。そのため、各州知事と連絡を取る必要がある。

(8/1 大統領公式ホームページ)

●ブチッチ・セルビア大統領と電話会談(7/30)

両者は、ベラルーシ・セルビアの現在の関係と展望について協議した。

(7/30 大統領公式ホームページ)

●チェルチェリ国家統制委員会委員長と会談(7/29)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・(チェルチェリ氏が6/4に同委員長に就任したことをうけ)貴委員長は既に同委員会の組織や人員に慣れたであろうか。どのような印象であろうか。

・ベラルーシでは、国家統制委員会委員長がヴィテプスク州を担当していた。ヴィテプスクには林業がある。ぜひ、ヴィテプスク州を大統領全権として訪問してほしい。

・私は、貴方が国家安全保障委員会で石油供給問題に取り組んでいたこと、頻繁にノヴォポロツクを訪問していたこと、そしてヴィテプスク州を把握していることを知っている。少なくとも、私に対し多くの者がそう言っている。

・国家管理は、警告的かつ予防的な性質を帯びている。

(7/29 大統領公式ホームページ)

●国家安全保障委員会緊急会合(7/29)

ルカシェンコ大統領は、露民間軍事会社「ワグネル」傭兵33名の拘束をうけ、国家安全保障委員会緊急会合を実施した。同大統領の発言要旨は以下の通り。

・私は、本日夜に発生した、非常事態と言える事件を解決するため、あなた方(同委員会メンバー)を招集した。

・私はロシア人の反応を見ている。彼らは、自らを正当化しつつ、我々が彼らを連れてきたかのように言っている。自身の汚れた意図をどうにかして正当化しなければならないことは明白である。もし、これ(拘束された者)がロシア国民であるなら、我々は即座にロシア連邦のしかるべき組織に対し、何が起きているか説明するよう要請する必要があるだろう。

・我々は、テレグラムチャンネルを含むロシアのマスメディアに対し、プーチンのように、猛吹雪を駆り立てないよう要請する必要がある。もし、(メディアに)罪があるのなら、しかるべき形でこの状況から脱する必要があろう。もし、(メディアに)罪がないのなら、我々にとって親しい国を中傷する目的は一切ない。

(7/29 大統領公式ホームページ)

●内務省3214部隊を視察(7/28)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・街頭デモにおいて、市民が治安当局を攻撃し、蹴ったりするのを見たが、あなた方はこれらを許容してはならない。自分の家で誰かを蹴ることは許されていないと知るべきである。挑発に乗ってはならないが、人々を侮辱してもいけない。そうでないと、我々は幼稚園のように子守をする必要があるだろう。

・ブレスト州第38空挺部隊(6/22)、ヴィテプスク州第103空挺旅団(7/16)、マリナ・ゴルカ市第5特殊部隊(7/24)を視察したが、いずれも装備は万全であり、正しい方向に進んでいる。

(7/28 大統領公式ホームページ)

外交

●マケイ外務大臣、クレーバ・ウクライナ外務大臣と電話会談(7/31)

両者は、ベラルーシの内政状況の安定化や両国国境における外国人の往来の管理強化について協議した。

(7/31 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ヤツェク・チャプトビッチ・ポーランド外務大臣と電話会談(7/31)

マケイ外務大臣は、大統領選挙の準備状況について説明を行い、両者は、ベラルーシ・ポーランドの協力関係発展の課題に関し協議した。

(7/31 ベラパン通信)

●ベラルーシ外務省、在ベラルーシ露大使館及び、同ウクライナ大使館に、拘束された露戦闘員に関し照会(7/30)

(7/30 ベラパン通信)

●クラフチェンコ外務次官、ジェフェリー・ジユク注ベラルーシ米国臨時大使と会談(7/28)

両者は、米国とベラルーシ間の対話の発展の展望を協議した。

(7/28 ベラパン通信)

経済

●ベラルーシ通信・情報化省、2021年～2025年のベラルーシのデジタル発展計画を制定。

同計画には、情報コミュニケーションインフラの整備、スマートシティ実現に向けた経済技術分野の革新的決定の導入、情報分野の安全保障が含まれる。

(7/31 ベラパン通信)

●ベラルーシ7月1日時点の対外債務、年始対比9億ドル(5.3%)増加の180億ドル。

(7/31 ベラパン通信)

●2020年上半期、ベラルーシ国内アルコール販売額、昨年同期対比、2.6%増加。

(7/30 ベラパン通信)

●2020年上半期のベラルーシ財政赤字、年間予定水準大幅超過。

2020年の財政赤字予定額は、10億ベラルーシルーブルであったが、1月～6月の実績値は18億ベラルーシルーブルであった。

(7/30 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、モギリョフ化学繊維会社を視察(7/28)

ルカシエンコ大統領の指令の下、ゴロフチェンコ首相は同社を視察し、同社の近代化された設備や過去に設定された計画の実現に関する問題発生理由について調査を行った。

(7/28 ベラパン通信)

●2020年1月～5月、サービスの輸出額3.5%減少、輸入額11.3%減少。

(7/28 ベラパン通信)

●2020年1月～5月、企業の負債額、11%増加。

(7/28 ベラパン通信)

軍事・内政

●チハノフスカヤ候補、ベラルーシ各地で選挙集会を実施(8/1～8/2)

同候補は7月25日～26日にかけてグロドノ州、プレスト州の各都市を訪問し、選挙集会を実施。各都市における集まった人数は以下の通り。

・グロドノ州

グロドノ市(8/1):7千～1万人

ヴォルコヴィスク市(8/1):3千人

スロニム市(8/1):2千人

・プレスト州

バラノビッチ市(8/2):7400人

ブレスト市:18,380人

その後、同州ベレザ市で実施予定であったが、治安当局が干渉するという噂を聞き、チハノフスカヤ候補本人は参加しなかった。

(8/2 ベラパン通信)

●ベラルーシ内務省、ミンスクにおけるチハノフスカヤ候補の選挙集会の参加人数を、1万8250名と発表。

(7/31 Tut.by 通信)

●中央選挙管理委員会、大統領選挙のため、155の国際監視団体を承認。

(7/31 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ候補、ミンスクで選挙集会を実施し、6万3千人が参加(7/30)

人権団体の情報によると、ベンガロール広場諸国民友好公園において、6万3千人が集まったとされる。

(7/30 Tut.by 通信)

●チハノフスキー(スヴェトラナ・チハノフスカヤ大統領候補の配偶者)の拘留期間、9月29日まで延長。

(7/29 ベラパン通信)

●中央選挙管理委員会による大統領候補の招集

露民間軍事会社「ワグネル」社のロシア人戦闘員の拘束を受け、中央選挙管理委員会は、大統領候補を30日8:55からのエルモシナ中央選管委員長との会談のため、招集した。大統領候補に対し、会談の議題は通知されなかった。30日、大統領候補のドミトリエフ氏、チェレチェニ氏、チハノフスカヤ氏、カノパツカヤ氏が選挙管理委員会を訪れ。ルカシェンコ大統領の代理として、コチャノヴァ上院議長が参加した。また、ラフコフ国家安全保障会議国

家書記も参加した。

(7/30 Tut.by 通信)

●ベラルーシ治安部隊、露民間軍事会社「ワグネル」社のロシア人戦闘員33名を拘束。

(7/29 Tut.by 通信)

●アムネスティ・インターナショナル、カラエフ内務大臣に、平和的デモ参加者に対する暴力の中止を要請。

(7/28 ベラパン通信)

(了)